

長岡市立劇場開館50周年 みんなのステージ俳句・にこにこ川柳コンテスト選評

【俳句部門 一般の部】 選者 俳人・夏井いつき

◆最優秀賞

星役も樹も眠そうな聖夜劇

原 峯子

「聖夜劇」とは、クリスマススイブにキリスト教系の学校などで演じられるキリストの生誕劇のこと。「眠そうな」から、幼稚園児の夜のステージを思いました。星や樅の木に扮した子供たちが、あくびをこらえているのでしょうか。幻想的な聖夜の風景に、天使のように愛らしい子供たちの仕草がリアリティーを加えています。

◆優秀賞

シンバルの最後の一打夏の空

月野うさぎ

鼓笛隊や交響楽のクライマックスを飾るシンバルの一打。出番は多くなくとも、最後に打ち鳴らせば、二枚の大きな金色の円盤が壮大な輝く音を響かせます。その音が夏空へ消えた後の静けさや暑さも感じさせます。

山笑う祖父の率いる音楽団

久保田凡

草木が芽吹き、花が咲いて、霞の中にはほえんでいるような春の山。その麓では、祖父の率いる音楽団が、愉快な演奏を繰り広げているのです。なだらかな山ふところに抱かれた小さな町の広場が見えてきます。

息と目を合はず転調あをあらし

葉村直

クライマックスのリフレインでの転調でしょうか。高鳴っていく音楽とともに「息と目を合はず」奏者の高揚感が伝わっています。青葉の上を吹きわたる突風のような劇的な旋律が響いています。

指揮台に薔薇やアンコールはビゼー

岡 一夏

「指揮台に薔薇」は、花束ですね。指揮者に花束が贈られ、指揮者は指揮台にそれを置き、アンコールが始まります。ビゼーならば、『カルメン』の「第一幕への前奏曲」に違いない、と思うのは、真つ赤な薔薇のせいでしょうか。

繰り返すメロスのセリフ蚊食鳥

高田祥聖

蚊食鳥は、夏の季語「蝙蝠(こうもり)」の別名。野外劇場で上演中の太宰治『走れメロス』を観ているのでしょうか。いや、まだ稽古中の夕暮れの景かもしれません。メロスを演じることになり、セリフを繰り返し練習しています。

【俳句部門 小中学生の部】

選者 俳人・夏井いつき

◆特選

風邪の子の分まで袖でせりふ読む

愛生

風邪引きでお休みしてしまった子の役を引き受け、本番当日になって急遽、自分の役と代役の二役を務めることになったのでしょうか。小声でブツとせりふの練習に余念のない舞台袖の様子が十七音となりましたが、おそらくこの後舞台上で、声を張って二役を立派にこなすだろう様子も想像させる一句です。

かじかむ手静けさの中おす鍵盤

津軽 健太(TK)

ピアノの発表会のステージでしょうか。本番の前まで手袋をして温めていたのでしょうか、いざ広いステージの上に一人ぼっちになると、手も、指も、心も、寒々と震えだしそうです。最初の一拍を指で押す瞬間の緊張感が伝わってくるのと同時に、静けさの中冴え冴えと響く美しい鍵盤の音が聞こえてきそうです。

◆優秀賞

冬隣鼓動重なるステージ裏

札木 真奈美

「冬隣」とは、冬がすぐそこまで来ていることを感じる秋の季語。寒く厳しい冬への心構えの気分には、出番を待つ演者たちの鼓動が一つに重なるステージ裏が取り合わされています。さあ、ステージへ飛び出す時間です。

響く音桜見守るピアノかな

ファンタジー

満開の桜と、ピアノの音が美しく響き合っています。ピアノの音色が桜を見守っているようでもあり、また、桜が音色を見守っているようでもあります。ピアノの演奏者もすべてが、美しい桜の光景にとけこんでいるかのようです。

ひらひらとおちる桜とおどる音

メロディー

「ひらひらとおちる桜」の花びらと「おどる音」が取り合わせられた一句です。満開の桜の中設置された屋外ステージでしょうか。きらめく春日差しをうけて、花びらも演奏の音もおどっているように感じているのでしょうか。

ステージに胸の花火も連れていく

諸田 和真

美しく夜空に打ちあがった花火の興奮を胸に抱きながら、ステージと向かっていく作者。ステージで大花火を打ち上げるぞ、との意気込みが伝わってくるようです。演じ終わった後の観客からの歓声も聞こえてきそうです。

はじめてのちようちよ役春よこい

ミント

初舞台でもらったのは「ちようちよ」の役。きれいな色の羽を背負って、ステージをふわふわ飛び回る役に喜んで、日々ちようちよになりきっている園児を思いました。「春よこい」と春の舞台がまちきれません。

【川柳部門】

選者 新潟お笑い集団NAMARA・高橋なんぐ

◆ブラボー賞

ひとり立つ炬燵のステージ猫が鳴く

りん太郎

私も幼い頃、よく実家の炬燵ステージに立ったものです。はたして観客席の猫の声は、ブラボーなのか、ブーイングか…

子のピアノ音色ともかくドレス映え

吉田 紫紅

演奏の出来栄えより、ステージにおける衣装映え。後々写真で振り返るなら、そちらのほうが大切かもしれません。

大根もい味出てるシニア劇

高野 敏英

お店(プロ)ではないご家庭ならではの味が染み込んでいるのでしょうか。役者さんも大根だけに降ろされないように…

壇から落ち楽器は無事か?と問う仲間

山

私も演奏会の司会をよく務めますが、見ていると演奏者と楽器、楽器の

方が丁重に扱われることは多々あります。

歌うより立つのがやっとな老人会

ミモリ

緊張と体力で袖から舞台までの距離が果てしなく遠く感じ、ステージに着く頃にはすでに息切れしている様子が目に浮かびます。

桃太郎なぜか息子はうさぎ役

ろんちゃん

今のご時世を象徴するような桃太郎が複数存在する作品は多数ありましたが、昔話に新しいキャラクターを加える句は他になく、おとぼけ感が際立ちました。

桜の木一番きれいに咲く我が子

ごん太

どこのご家庭でもそう。木の役という時点でおそらく台詞もないのである。しかし、その中で優劣はひいき目という名の愛情。

かつら飛び台詞も飛んで野次が飛ぶ

ルーキー

チャップリンも言っていました。近くで見ると悲劇だが、遠くから見れば喜劇です。

カタカナで覚えた第九意味不明

なわとび

今どこを歌っているのか楽譜迷子になっている年の瀬。世の中、意味なんてわかってないことがほとんど。今私が着ているTシャツに書かれている英語もそう。

あとの人カスネットと言われた日

寒蛙

先生から告げられた以下同文感の残酷さを表現。複数のメンバーがカスネットをたたたく様、手のひらを上に待つ様を想像すると、なお切ない。

※順不同・敬称略